

令和4年度 伊予市がんばる地域コミュニティ応援事業交流会 概要

開催日時：令和5年3月12日（日）13：30～15：40

開催場所：IYO夢みらい館会議室201

参加者：31名（伊予市がんばる地域コミュニティ応援事業費補助金審査会審査委員・採択団体（4団体）・一般参加者・事務局（伊予市企画振興部地域創生課））

●開会の挨拶（伊予市企画振興部長）

●開催内容の説明等（事務局：伊予市企画振興部地域創生課）



●事業成果発表①【団体名：地域新聞みあき】

事業内容

愛媛大学の学生と三秋地区の地域資源（放置竹林や農産物）の利活用について共同研究し、付加価値のある物（スムージー・竹楽器等）へと昇華させる。



●参加者からの質疑・感想等（意見交換）

- ・レンコンは、初めて生産されたのか、それとも地域の特産品でイベントにむけて作ったのか？
→もともとレンコンは地域にはなかった。事業を始めて2年目に地元の有志で話し合い、耕作放

棄地の活用を目的に始めた。昨年開催で4回目の実施。

→レンコンは、収益性がよく儲かる農作物と聞いたことがある。三秋地域でもっと浸透していけばいいなあと感じた。

- 愛媛大学との地域と大学との共同取り組みで素敵だと思うが、イベントのようで、単発で終わってしまわないようにすることが必要であり、どうやってつなげていくつもりか。

→継続という面では、毎年の課題となっている。今のところなんとか声をかけて継続している。

今後、どうなるかは分からない。できる限り、続けていきたい。今回のような交流会やセミナー等にも参加しながら時代に合わせた形に展開して継続していきたい。

- 愛媛大学との連携について、学部は社会共創学部ですか。チームワーク的な形で学生のフィールドワークとして参加しているのか教えていただきたい。

→社会共創学部との連携である。今後は、大学側も先生によって取り組み方もちがうし、毎年同じ場所というわけにもいかないなので、相談しながらできる限り協力していただきながら継続させていきたい。

- 地域新聞みあきは自治会が主催なのか。

→組織的には、自治会の中の一組織となっているが、活動は独自で動いている。メンバーは有志で構成。ただし、自治会のトップの承諾を得ることでスムーズに活動に取り組んでいる。

- 新聞の発行について（経費）

→当初は、用紙の大きさも今の大きさの半分だったが、文字の大きさを考えて今のサイズとなった。年3回の発行。200部程度。1回3万円程度の経費が発生している。

●事業成果発表②【団体名：フラピクニック実行委員会】

事業内容

夏の「フラピクニック in 五色浜」、冬の「(仮称)フラピクニック in IYO 夢みらい館」と半年に1度の大きなイベントを核として、年間を通してフラやハワイ音楽、ビーチヨガの事業を展開しながら、地域・まちを元気にしていく。



●参加者からの質疑・感想等（意見交換）

- 「ビーチライフ in いよ」のイベントがあったことを知らなかった。「フラピクニック in 五色浜」は知っていたのだが、参加者が多数集まった要因は？

→「フラピクニック in 五色浜」は 2015 年から始まっている。伊予市のフラチームは 5 チームだが、県内外でもフラダンスの祭典があるということはフラダンス協会では、有名になっている。マルシェも同時開催のため、また、夏休み最後ということもあり、それに携わる家族や関係者への波及効果もあるのではないと思われる。

「ビーチライフ in いよ」については、佐伯美香氏が NPO 法人を通して、昨年度が初めてのイベントであり、広報がまだまだ足りない。今年は、9 月 24 日（日）に開催予定。周知をしたい。

- ・五色浜の可能性について言われていたが、同意見。夕日のきれいさは、下灘よりもきれいだと思っている。五色浜一帯の五色姫海浜公園周辺のエリアを子ども達がのびのびと遊べる場所が海沿いになれば素晴らしいと考えている。今後もそういう視点で活動していただきたい。

→ありがとうございます。

※来年度「フラピクニック in 五色浜」は 8 月 27 日（日）に開催

●事業成果発表③【団体名：いよあかり】

事業内容

竹を使ったものづくり・自然の中で体験活動



●参加者からの質疑・感想等（意見交換）

- ・どこで活動しているのか（場所）

→主に上吾川地区の集会所で実施している。今後人数が増えると場所も狭いため要検討したい。

- ・一年間通して周知しているのか、その都度、周知しているのか。周知方法は、紙媒体か。

→今のところは、Instagram でのお知らせとチラシを作成し、児童館や市役所等に配布。まだまだ、配置場所も分からないため、どこに置いたら効果的なのかも教えてほしい。

- ・内容を見ていると竹や和紙については、年配の方も興味があると思うが、SNS での発信だけだと年配の方には届きにくいのかも感じた。

→チラシについては、是非、手に取ってもらいやすい配付場所も教えて欲しい。

- ・費用面はいくらぐらいかかったのか。

→今年度、材料費や資材もそろった。竹あかりの作成の場合、一人 1,000 円・子ども 500 円で実施した。

- 活動場所はどこになるのか（竹を切ったりする場所）
→読み聞かせの事業は、IYO夢みらい館、竹を切ったりする作業については、地域の集会所を借りて実施している。
- 竹は、「地域新聞みあき」とコラボするといいいのではと思います。
→ぜひお願いしたい。
- 作業については、竹の伐採に男性の協力が不可欠だと思うが、協力者はいるのか。
→今は、ボランティアや地域のつながりや手話つながりで何名かいるが、今後、参加人数が増えてくると人数が必要。地域に飾りたいということで規模が大きくなると人手が必要になってくるのでボランティア等手伝っていただける人がいるとありがたい。
- 竹あかりに興味あり、三秋で開催しているホテル観賞会の足元を照らすあかりとして是非機会があれば連携をしたい。
→ぜひお願いしたい。
- 大人の竹あかり、ギルディング体験（和紙の体験）等の大人対象の事業は、いい事業だと感じた。手作りワークショップの体験は満足するものを提供する場所としていいのでは。気になった点として、子ども向けの体験について、過保護感があると思われた。学童保育でも同じことをやっているのでは。それよりもコンセプトにもあったが、世代を超えてお年寄りももっと巻き込むようなもの、世代間交流の場所。みんなの居場所という点では、子どもを囲い込むのではなく、子どもがのびのびと遊ぶ場所を提供するのがいいのでは。子どもをある程度放置することもいいのではと個人的に感じた。過保護感があるので、検討していただきたい。
→検討したい。

●事業成果発表④【団体名：TEAM とりのき】

事業内容

年間を通してテーマを変えた事業を展開し、地域住民間の交流や地域から出られている方も対象に携わっていただくことで、地域に対する郷土愛を育み、また地域コミュニティの強化を図っていきたい。事業をする中でも、伊予市独自の伝統や文化を大切にし、また、子どもたちの記憶に残る場を提供していく。



※今年度の事業実施は残念ながらできなかった。地域での様々な事情や制限により難しかった。ほかの団体でそういった声がなかったかどうか聞いてみたい。地域で3年間の事業できなかった

ことで、地域の活動を知らない子ども達もでてきた。次年度に向けて、団体の活動を地域の人に知ってもらうために今後、情報発信に力を入れて、三世代交流に取り組んでいきたい。

●参加者からの質疑・感想等（意見交換）

- ・特にはなし

●全体の講評（審査委員3名）



【前田委員】

・地域新聞みあき

地道な活動をしっかりとされている。情報の共有の仕方がうまく新聞という形でできおり、いろんなひととの関わりができていた。結果として何が生みだされたのかを聞いてみたい。目指しているところだと、内外の人に地域に対する愛着が出てきたか、強まってきたか。そのあたりが見えてくると成果としていいのでは。

・フラピクニック実行委員会

五色浜を通じた交流人口・関係人口づくりがテーマとなっている部分がある。五色浜のファンを増やす取り組みになる。参加する人が増えたりするのが一つの成果になる。五色浜でビーチ図書館や写真館等の新しいテーマや取り組みが生まれてくると、自分たちのやりたいことをしながら他の人たちのやりたいことを「誘発」するような活動になるといいのでは。テーマ型の活動なのかと思っている。いい意味での関係人口、交流人口が増えていく。

・いよあかり

竹あかりという竹を使った事業について、本来、テーマ型の取り組みである。自分たちが子どもや大人のやりたいことを応援するということで、テーマが地域の課題とうまく結びついていくような活動になっていっている。竹で言うと放置竹林問題や子どもの成長をどう促していくのか、もっと言うと大人の成長を促していくような形に繋がってくる。地域課題というより、社会の課題。社会の課題に切り込んでいっている。多様な参加を生み出す新しいコミュニティを作っていくことが大事だと思うので、それを担っていく形ができていくといいのではと思われる。

・TEAM とりのき

コロナで実施ができなかった点で、いろんな事情がある中で残念ではあるが、少しコロナが落ち着いてきた際に同じ環境の中で他の団体が活動している団体もある。どの部分でできていたのかも含めて、当初想定した規模を縮小したり、何かできたかもしれないというのも考えてみてもいいかも。安全面で見るとガードをしないといけない部分はあるが、そこをリスク共有するようなことができれば、少しやり方が変わるとできたかもしれないと思いました。どちらにせよ、正解はないので今後もいろんな形で協議し、相談しながら道を探っていけるといい。

- 全体を通しての感想

みなさん積極的にコロナの状況下でもできているため、来年度以降も引き続き続けていければいいのかと思われる。

【前神委員】

- 地域新聞みあき

今後やってみたいこととして「タタタハウス」に行ってみたいとのことを言われていたが、先方からも連絡をいただいていた。「タタタハウス」の紹介（「商店街の中にある学校用品店」その商売だけだと先細りだと考え、新たに事業展開し、リノベーションしたい人を集めて改装した。1階を貸しスペースとしていろんなことをしている（カフェやバーとしても活用）。2階は、大学が研究室として借りている。民家の中に大学の研究室がある。商店街は、4時から6時の2時間は商店街が歩行者天国となっている。そこで大学生が考えて取り組んでいる。地域新聞みあきと一緒に、大学生と連携している。今は、大学生が、イベントがきっかけで関わっているが、タタタハウスでは、プロジェクトとして、商店街のことを考えたり、「リビングラボ」という事業やプロジェクトとしても実施。卒業しても関わっている。）そういう交流も一緒にやってきていただけると楽しくなるのでは。伊予市は、双海町で活動する地域おこし協力隊が頻繁にここに出向き、特産品の委託販売もしているため、愛媛県伊予市の知名度も上がってきている。この配信と繋がっていくと楽しいのではないかと聞いていた。

- フラピクニック実行委員会

五色浜がいろんな可能性を秘めていることにみなさんが気づいていくと、今までとまた違う場所になってくるのではと感じた。関係人口や移住の話も出てきたが、みなさんが楽しんでやっていることなので、あまり何かのためにというのにとらわれなくてもいいかも。自分たちがたのしむことへの「共感」の場であったほうがいいのでは。フラでこんなに楽しいことができるのであれば、他にも楽しいことができるのでは等の新しい発想が生まれる。前田委員も言っていたが、誘発。盛り上げるのにとらわれすぎると、フラを盛り上げることが目的なのか、五色浜を楽しむことが目的なのかという、別に2択ではないので、可能性の広がりはずは共感だと思う。楽しい姿を見せると人はやってくるみたいなのがある。よく巻き込むという言葉聞くが、巻き込まれた人は誰かに巻き込まれてえらい目にあったという感覚で使うことがあったり、巻き込まれ型の方は、次の指示をずっと仰ぐ形で動きやすいが、共感で集まった人は、それぞれが自主的にこれやとく、やりたいというのが出てきやすくなる。この事業は、共感を生みやすいイベントだと思われた。

- いよあかり

最後の言葉に感動した。「人のところに寄り添う地域の明かりでありたい」。世代を超えてみんなの居場所ってすごく求められていること。みんなあったらいいなぁと感じているのではと思う。国の取り組みで言うと「地域共生社会づくり」という難しい言葉があるが、暮らしの中で思っていてやってみようという人があちこちに出てくるとこういう社会になる。難しいことではない。子どもを喜ばせたいと思って大人がしてあげたいことがたくさんあるが、大人自身が楽しむための竹あかり、別々にされていることがすごくよかった。大人は、意外と自分たちが楽しむことを二の次にしてしまう傾向がある。大人が楽しめる場はとてもいい。だからこそ、地域でつながるきっかけに自分自身がやりたいという気持ちが湧いてくるのではないかしら、新たなつながりで手話をきっかけにろう者とつながるのも自然なつながりだと思う。ボランティアをしませんかと声をかけるよりも、何かできることを一緒にしませんかというような共感してやりたい人が入ってくると無理なく続けられるのかと思った。事業内容としてもいい取り組みであると思う。

- TEAM とりのき

活動はできなかったことは残念でした。他の地域でも助成金もらったけど、コロナでできなかった団体がたくさんある。発表の中にもあったが、情報発信することが大切というのがあったが、これは本当に大事。事例紹介：1冊のコンセプトブック（小冊子）のようなものを作ってみた地域がある。これまでの自分たちの思いがコンパクトにまとまるし、空白の期間にあったこと、自分たちの忘れかけていたことも思い出せる。作ってよかったという感想をよく聞いている。思いは、伝えないと伝わらない。イベントではない、伝える方法もコロナ禍で生まれてきている。イベントだとみんなで集まり何かをするということで労力があるが、みんなでこつこつ共有していく場を持つのであれば、オンラインが難しければ、持ち寄りの作業等で少しあつまってみるのもあり。そうすると意外と地域の中に文書にするのが上手な人や聞き書き、思いを自分で文書にするのは難しいが、文書に書くのが得意な人もいる。イラストが上手な人もいたりして、思い出に残るような取り組みができるのでは。

- 全体を通しての感想

みなさんの活動がいろんなところに広がっていけばいいなとは思いますが、全部自分たちがやると大変なので、共感する人が、ちょっと似ているけど違うことをやってみたり、いろんなことが起こりやすい伊予市になっていくと楽しくなるのではと思う。予期しないことがどんどんでてくることを「創発」という。今後、「創発可能性地域伊予市」みたいになるといいのではと感じた。

【柴崎委員】

- 地域新聞みあき

大学生が伸び伸びと活躍する場を作られていて、人が活躍する場面を作れる地域なんだなあと感じた。あえて新聞を紙で作られていることもいい。これからいろんなことをやってみたいという中で、竹モルック、音楽の活用。レンコンの加工品を開発してみたい話もあったが、全部自分でやるのではなく、どんどんいろんな人たちの活躍する場を作ってあげようという感じで、例えば、伊予農業高校にレンコンの加工品開発を出してみたり・伊予高校はブラスバンドが有

名なので、何か楽器で奏でてほしいであったり、いろんな人たちに知恵や技術を貸してもらって人の活躍する場面を作れると三秋地区の力をはっきできると思われる。出番づくりをすることができるとそんな感じでみんなの出番づくりを意識した活動を広げていってほしい。

- フラピクニック実行委員会

五色浜ファンを増やす意味でフラはキーワード。ファンを増やすということと、地元の子も達が自分の故郷を自慢して話すことの一つに子ども達がフラを語れるような仕掛けがあると、子ども達がフラに触れられる機会があると地道な活動としてやっていくと定着するのではないかと感じた。

- いよあかり

竹の灯籠は、説得力と美しさのインパクトがあり、誰もが見ても美しいという魅力にとりつかれたのではと思います。竹の明かりという視点でとてもインクルーシブな素材だと思う。視覚障害の方も竹の材質であったり、穴をあけるということで形も分かるし、加工している際の香りもいいので、いろんな楽しみ方もあったりする。伊予市初のインクルーシブな政策であったりクラフトも柱一つとして誇りをもって実施してみるのもいいのでは。子ども達の居場所づくりは、自身も取り組んでいるが、つつい何か楽しんでもらおうといういろんなプログラムを用意してしまうが、何もなくてもよくってホッとできる居場所。事例：何にもしない合宿（静岡）。体育館に子ども達が集まり何にもしない。何にもなくても人が集まってくるのが居場所ではないかと思う。常設ではないため、難しいかもしれないが、そんなプログラムベースにはない活動にも視点をむけてもいいのではと思った。

- TEAM とりのき

活動できなかったという報告にこれだけの人が集まり、圧を感じる（笑い）。情熱という圧があった。この思いがある人たちがいる地域は正直うらやましいと思う。先日、島根県の益田市（人口 47,000 人）に行った際の事例紹介（300 人が集まって 3 人グループで話し合うと、中学生や高校生が地域の大人が格好いい、面白い、地域のおじちゃんが優しい、学校の先生と違って評価しない等という感想が出てくる。先生や親ではなく地域のおじちゃんが自分たちにとってどれだけ大事で、そういった子ども達は、自分が大人になるのが楽しみという発言を聞く。今どきの子どもで大人になるのが楽しみだと言える子どもがどれだけいるのか。別にそれは、そのこの力というよりも周りの大人がどれだけ魅力的か。楽しそうな大人、自分たちを目にとめてくれる大人がいることがこれからの社会には大切なのかなぁと感じた。）達が話している。そういった益田市のような楽しい大人が、鳥ノ木にはいるのではと思う。一緒に活動してみたいという地域になるのではと感じた。

●交流会【コーディネート役：前田委員】

- 各団体にきいてみたいこと、こんな繋がりをしたい、審査委員の話を聞きたい等質問があれば、それをテーマに話しをしてみよう。



【会場みなさんに聞いてみたい点】

- ・団体の活動が始まるときにキーマンがどうの方がどういうきっかけで活動が起こるのかを聞いてみたい（各団体）。

地域新聞みあき

地域の高齢の方から話をいただいた。もともと代表者は、東京からのUターン。その時に、今の三秋地区をどう思うかと問いかけられて、人口も減り、子供の数も減る中で地域の行事も減っている。顔も見えなくなっている中で、何かできることないかと言われた。とりあえず情報発信でもしてみるかとのことで始めた。

TEAM とりのき

発起人は代表者。ここにいるのは、メンバーではない。郡中校区は伊予市の中でも人口も最大の校区。その中におやじの会という団体がある。活動する中で、市民運動会や祭りのパレードの開催時に他地域に楽しそうな団体があった（松本軍団）。市民運動会を楽しそうに行っていた。また上吾川か松本軍団かという雰囲気であった。ただ、こういう団体は、郡中を盛り上げるには必要なことなのではないかと感じた。その中でも地域でライバルが必要ではないかと思い、米湊・下吾川にもメンバーがそれぞれ地域で盛り上げている団体として、それぞれ郡中を盛り上げていこう、伊予市を盛り上げていこうということで活動している。

いよあかり

代表者が発起人。子ども達を巻き込んでのイースターイベント、ハロウィンやジャガイモ植え等の事業をしたいという気持ちから昨年度から活動を始めた。メンバーともこういうことやりたいということで意気投合し、知り合った。偶然見かけたインスタで、竹あかりも見つけて、補助金制度の情報が有り、子ども達もやりたいことができるということで、共感者同士のスタート。

フラピクニック実行委員会

フラをしている方と話をする中で、発表会をするには団体に所属しないといけないという話を聞いた。チームを抜けると発表する場がないということと言われて、どこでも場所や機会があればできるのではないかと考えていた。そんなとき、五色姫海浜公園に久しぶりに行くと昔と違い、素敵な場所になっていた。最初は、小規模で企画も自分でやったためかなり大変だったが、継続する中でどんどん広まっていったマルシェを企画している人とも連携し、せっかく人と人がつな

がっていく中で、五色浜じゃないといけないというわけではないが、知名度がまだまだ。(双海と比較) 五色姫海浜公園ではこういうことをしているということを、いろんなイベントも繋げてどんどん広げていきたい。次世代につなげていけるようにし、世代交流をしたいと考えている。

【参加者からの質問や感想等①】

地域がまとまる、魅力を発信していく際に、場所がないというのはもどかしく思っていた。SNSでの発信もあるが、アナログ人間には、SNSが無縁。昔なら例えば三越に行けばワクワクしたり、いろんなことが分かった。そういうものが伊予市にあればと感じていた。自身もUターンで5年前に伊予市に戻ってきて、最近、灘町のつたや旅館の駐車場スペースに交流スペースが完成した。そこを情報発信スペースにしたいと考えている。アンテナショップとして、情報を一つに集めて発信したい。そこを訪ねれば伊予市が分かるような場所にしたい、ようやく土台ができた。今年の7月完成予定なので、ぜひ活用していただきたい。

【参加者からの質問や感想等②】

コーディネーター的なことが大切だと思っている。自分たちがイベント(ビーチライフ in いよ)に出会ったきっかけは、市役所が活動団体とコーディネートしてくれたことがきっかけだった。せっかく今年度からは地域創生課があるので、何か行事をキャッチした際には、地域とのコーディネート役として頑張してほしい(要望)。

→そういった人材育成にも取り組んでいければいいかも。

→こういう役割があるといいなあと思うことがあるが、役割を決めてしまうと、違うことが起きたときに、新たな役割が必要になる。グループとネットワークの違いとして、ネットワークはプラットフォームで、いろんな人が出会ったときに、例えば、これなら自分たちが動いたらできるとか、今回の件だとあの人が詳しいのでお願いしたらいいのではというようなことで、見える関係性ができてくると、コーディネーターはこの人と固定して決めるよりももっといい動きになっていくことがある。市役所の職員として、地域創生課に聞く安心感はもちろんあり、頼れる存在として頑張してほしい。リーダー育成は、これまでも市役所や地域でもたくさんやってきたと思うが、リーダーという役割で固定すると続かなかったり、リーダーよりも自分のほうができるのにといったこともあったりしたときに、その人は、地域外になったりすることもある。役割というのは、これからの人口減少時代としてのいいところは、お互いが見えやすくなることであり、役割分担を固定して動かなくてもいいのではないかと感じている。いろんなことが自由に入れ替わることが暮らしやすさ生きやすさにつながってくるし、さきほどのインクルーシブにもつながってくるのではないかな。

→固定化すると窮屈になることもあるので、自分ができるときに関わってくるというのでもいいのかもしれない。

●次年度以降の説明・事務連絡

●閉会